

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 田原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 60人 |
| ② 数学 | 60人 |
| ③ 理科 | 60人 |

5 留意事項

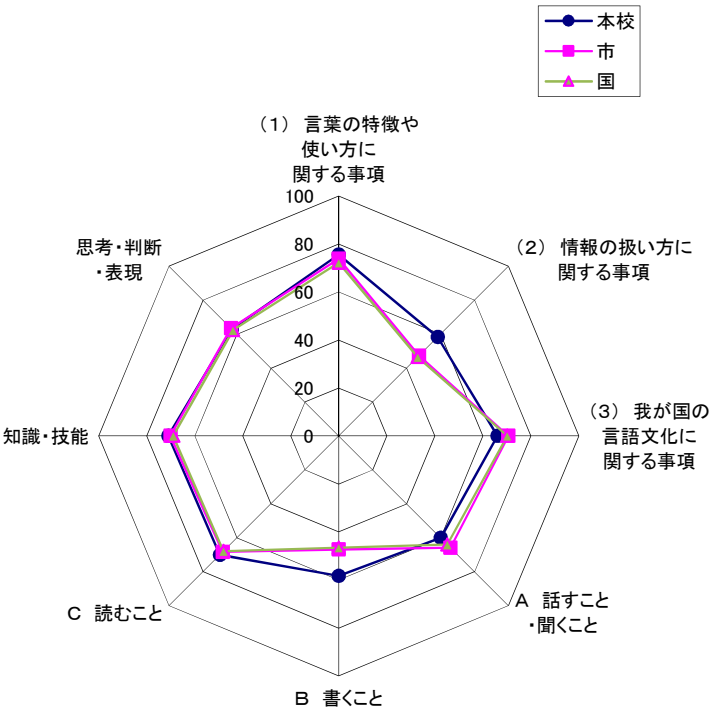
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	75.6	73.8	72.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	58.3	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	66.1	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	60.0	65.9	63.9
	B 書くこと	58.3	47.3	46.5
	C 読むこと	70.0	68.3	67.9
観点	知識・技能	71.0	70.2	69.0
	思考・判断・表現	63.1	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

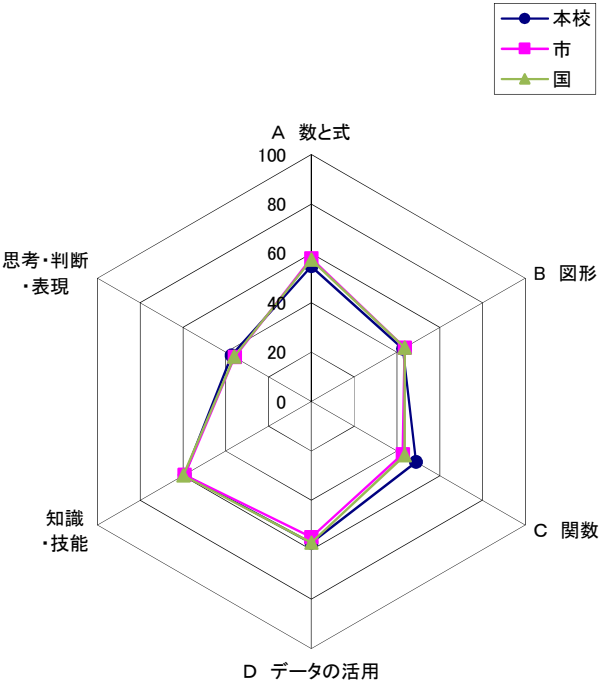
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市の平均を1.8ポイント上回っている。 ○文脈に即して漢字を正しく書く問題には、9割近い生徒が正答できている。 ●助動詞の働きについて理解し目的に応じて正しく使う力と、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す力を試す問題で、正答率が低い。	・助動詞は、その性質と働きについて、入試問題等に頻繁に出題される品詞である。1・2年次の学習内容を復習しながら、その他の品詞についても振り返らせておきたい。 ・漢字の読み書きについては、日常生活になじみのある用例を示し、反復練習の課題と確認テストをくり返し、定着させていきたい。また、慣用句や四字熟語、ことわざ等の語彙力も高めたい。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、市の平均を大きく11ポイント上回っている。 ○資料から必要な情報を引用し、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題には、6割近い生徒が正答できている。	・グラフや図表などの資料を的確に読み取り、自分の考えに結び付く材料を引用するといった、課題作文の類題に取り組ませる。書き上げた文章を授業の中で、相互に読み合わせることで、表現の工夫のしかたについて考えさせたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より4.6ポイント、県平均より4.1ポイント低い。 ○漢字の行書の読みやすい書き方についての理解を問う問題には、9割以上の生徒が正答できている。 ●漢字の行書の特徴とそれに調和する仮名の書き方を問う問題の正答率が低い。	・1年次に学習した行書の特徴について、再確認する授業を行う。特に基本的な「点画の省略」や「点画の連続」を、教科書に示された題字で確かめる。また、行書の漢字と調和する平仮名の書き方についても、毛筆を取って確かめさせたい。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より5.9ポイント、県平均より3.9ポイント低い。 ○スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す問題の正答率は、県平均を2.4ポイント上回った。 ●どのような意図をもって、どのように話を進めるかを問う問題の正答率が低い。	・相手に分かりやすく伝えるためには、表現を工夫すること、相手の反応を踏まえながら話すことが大切であることを理解させていく。 ・国語の授業をはじめ、学級内の話し合い活動等においても、話し合いの方向を適切に捉えて、自分の意見を述べられるよう習慣づけていく。
B 書くこと	平均正答率は、市の平均を大きく11ポイント上回っている。 ○6割近い生徒が、資料の一部から必要な情報を引用し、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができている。 ●無回答率が6.7%であった。	・日頃からスタンダードダイアリーの記録などを通して、日常で疑問に思っていることや、家族や先生、友人に聞いてもらいたいことを、書き留める習慣を付けさせたい。その習慣が、国語の授業で書く「意見文や、入試の「課題作文」にも役立つ力になると考える。
C 読むこと	平均正答率は、市の平均を1.7ポイント上回っている。 ○話の展開を取り上げながら、登場人物の心情を書く問題には、8割の生徒が正答できている。 ●場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写をもとに捉える問題の正答率がやや低い。	・文学作品の読解において、描写に込められた心情への共感必須である。情景描写、行動描写…想像力をもって読み取らなければならない。授業の中で、数多くの名作・名描写にふれさせ、共感できるような解説を心がけたい。

宇都宮市立田原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	54.7	58.0	57.4
	B 図形	42.8	43.6	43.6
	C 関数	48.9	42.7	43.6
	D データの活用	57.2	54.9	57.1
観点	知識・技能	59.3	59.3	59.9
	思考・判断・表現	37.3	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

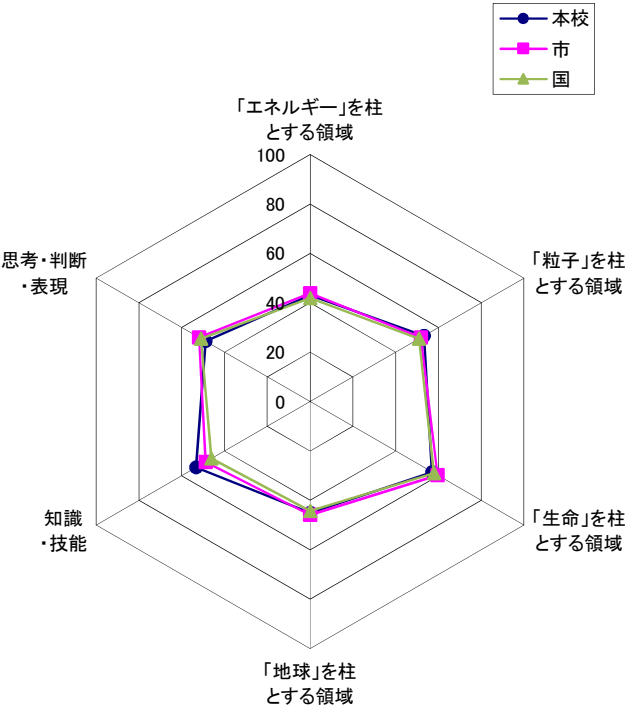
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率は、県とはほぼ同じであるが、全国に比べて3ポイントほど低い結果となった。 ○計算はおおむねできている。演習の時間を多く確保した成果に感じられる。 ●文字を扱った抽象的な問題の理解に苦しんでいる様子が見受けられる。ただ、理解できた生徒は、設問の最後まで解くことができており、県と全国の平均正答率を上回ることができている。このことから、生徒間での理解度に差があることがわかる。	・今後も定期的に復習の機会を設け、課題の明確化につなげることで、知識・技能の定着に向け、主体的な行動を促す。 ・基本的な形だけでなく、変形をすることで、基本的な形になるような問題に触れる機会を多く設ける。思考の第一歩として、まずはしっかりと書く習慣をつけさせたい。 ・文字が何を表しているかをしっかりと確認する習慣をつける。自分の考えを言語化し、思考過程を整理するように指導していきたい。
B 図形	平均正答率は、県とはほぼ同じであるが、全国に比べて0.8ポイント低い結果となった。 ○適切な合同条件を書く問題では、県と全国の平均正答率を上回っている。証明の練習を、手順を細分化し、指導した成果であると考えられる。 ●用語の理解ができていない。今回は、「反例」という用語の意味を理解しているかが問われる問題での正答率が低くなってしまった。証明について学習する分野であるため、証明の演習に時間を割き、反例についての演習が不足していた可能性がある。	・図形分野では、多くの用語が使われるため、定期的に用語を確認する機会を作る。その際に、パワーポイントや動画といったICTを効果的に活用し、定着を図っていきたい。 ・小テストや単元末テストといった自分自身で振り返ることのできる機会を増やす。 ・グループワークを活用し、自身の考えを言語化し、思考の整理をするよう指導する。また、多くの考えに触れることで、自分に合った考えを見つけることができるよう促す。
C 関数	平均正答率は、県と比べて7ポイント、全国と比べて5.3ポイント高い結果となった。 ○座標や変化の割合といったグラフの関係する内容において高い正答率となっている。グラフを書く演習の際に、グループワークにより、お互いに学びあうことで、技能の定着を図ることができた。 ●身近な事象を数学的に解釈するような、技能を生かすために、自分の中で解釈し直す問題になると正答率が低くなっている。	・関数については、知識・技能の定着が図れているため、思考力を高めることのできるような問いに焦点をあて、指導していきたい。一見すると、異なる問題のように見えるが少し変形するだけで同じように解くことのできる問題、情報は多いが1つずつ整理することで解くことのできる問題といった工夫が必要となる問題に触れる機会を増やしていく。 ・中学3年生では、新たな関数も学習するため、既習事項と関連付けてより深い理解につなげていきたい。
D データの活用	平均正答率は、県と比べて2.4ポイント、全国と比べて0.1ポイント上回る結果となった。 ○身近な事象を扱った確率や資料の分析は、それぞれデータの意味するものをしっかりと理解している。 ●箱ひげ図については知識・技能の定着があまり図れていない。資料の分析はできているため、その情報が図が変わるとどこに現れるかが理解できていないと予想できる。	・図形分野と同様に、データの活用においても多くの用語が使われる。今回問われた用語は理解できていたということもありうるため、油断することなく定期的な確認を行っていく。 ・数学としてのデータの活用ではなく、身近な事象で活用することのできるデータの活用という認識をつけさせる。箱ひげ図や資料の分析といった情報を整理するための手立てを、自ら引き出すことのできるような指導をしていきたい。

宇都宮市立田原中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	43.1	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	53.3	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	57.0	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	45.0	45.9	44.3
観点	知識・技能	53.3	48.8	46.1
	思考・判断・表現	48.9	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	全国平均と比べて1.2ポイント上回ったが、市の平均よりは0.7ポイント下回った。 ○「日常生活において静電気を帯びる現象」について、特に正解率が高かった。身の回りの現象と科学的な観点を結びつけることができているといえる。 ●グラフの読み取りや適切なグラフを導く問題について、正解率が全国平均を下回っている。	・日常生活と理科のつながりや基礎知識に関する理解は高まっているが、実験結果をグラフに表すことについて課題がみられる。 ・実験後のデータ処理を丁寧にを行い、結果が意味することについての理解を深めさせたい。
「粒子」を柱とする領域	全国平均と比べて2.4ポイント、市の平均より1.5ポイント上回った。 ○粒子のモデル図や状態変化の際の温度変化などにおいて理解度が高かった。 ●考察を組み立てる問題において、正解率が低かった。知識は身についているが、そこから問題に応じて考える力い課題があると考えられる。	・実験方法について、ひとつひとつの操作の意味や目的、より適した方法に触れながら実験を行うことで、より正確な結果を得るための方策を考えながら実験を進めさせたい。
「生命」を柱とする領域	全国平均と比べて0.9ポイント、市の平均より2.6ポイント下回った。 ○生物の分類を、比較しながら考える問題について、特に正解率が高かった。 ●実験方法から考察を深める問題の正解率が低かった。	・扱う語句の量が多い単元であるため、随時用語の確認を行いながら理解度を高めたい。 ・生命領域でも、実験の意図や操作、結果からわかることについて、考察を深めた授業展開を行いたい。
「地球」を柱とする領域	全国平均と比べて0.7ポイント上回ったが、市の平均よりは0.9ポイント下回った。 ○地層や岩石、天気における基礎知識をよく理解することができている。 ●データから考察を導く問題や、地層のつながりを考える問題についての正解率が低く、与えられた情報から次の考えにつなげることに課題がある。	・基礎の内容はしっかりと身につけることができている。今後も確認を行いながら定着を図りたい。 ・地層の応用問題は地層のつながりを具体的にイメージすることが難しく、生徒の理解度に課題のある範囲である。視覚的に理解できるよう、視覚教材等を利用しながら正確な理解へとつなげていきたい。

宇都宮市立田原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○ICTを積極的に使用している。「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」という質問では、本校の肯定的回答割合は県や全国と比べて、30ポイント以上上回っている。学習活動での使用や意見交換するでの使用が、他の質問で見取ることができるので、効果的に使用できるように努めている成果だと考えられる。ただ、集中力が続かず、指示にはないことをしてしまう生徒もいるという課題もあり、場面に応じて適切な学習ツールを選択できるよう意識していく必要がある。

○「家で、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。」という質問では、先生や友達、家族に聞くという回答割合がそれぞれ県や全国の回答割合を上回っている。特に、先生に聞くについては、県や全国の回答割合を6ポイント以上上回っている。また、わからないことをそのままにしているという生徒の割合は県や全国よりも低い割合となっている。身近な存在である方々を頼れるというのは、信頼関係が構築できているためだと考えられるため、学習についても生活についても良い傾向であると考えられる。今後も生徒1人1人に目を配り、それぞれに合った指導ができるよう努めていきたい。

●平日の学習時間が県や全国と比べて少ない。本校の平日の学習時間で最も多いのは1時間以上2時間未満という回答である。それ以上に学習している時間の回答を比較すると、県の回答割合よりも14ポイントも下回っている。ただし、学習を全くしていないという生徒の割合は本校の方が低い結果となっている。このことから、学習をすればよいという意識になっているのではないかと考えられる。たしかにしないよりはした方がよいというのは間違っていないが、ただやればよいという考えだと成績の向上にはつながらない。自分は何を学習する必要があるのかを理解し、学習内容を選択する習慣が身につけられるよう指導して学力の向上につなげられるようにしていきたい。

【生活について】
○「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」について、県26.6%全国21.4%に対して42.6%と高く前向きな姿勢で生活している様子が伺える。生徒の姿勢を教師側も理解して学校生活を送れるように努めていきたい。

○自分には良いところがある、と答えた生徒、先生が自分の良いところを認めてくれている、と答えた生徒が全国平均値よりも多く、自分の存在価値を自分で認めている生徒が多い。

●テレビゲームやスマートフォン、タブレットの動画視聴時間が4時間以上という生徒の数値が県や全国よりも高いことから、長時間の利用が学習時間を確保できないことにつながることを指導していく必要がある。

宇都宮市立田原中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
わかる授業の展開を中心とした学習指導の工夫・改善	・基礎基本を確実に習得させるために、ねらいと振り返りを行い、その時間に学ぶべきことがわかったかどうか確認させる。 ・タブレットの有効的な活用 ・家庭学習の習慣化の定着に向け、毎日家庭学習ノートの提出	・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」への肯定的回答は、県や全国より上回っている。 ・タブレット関連の質問への肯定的回答は、県や全国に比べてどれも大きく上回っている。 ・平日の家庭学習に関する質問の回答結果によると、平日の学習時間が「1時間以上2時間より少ない」の回答が最も多い。学習内容をより充実させていくよう助言していく必要がある。
対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・授業の中で周囲と意見を出し合い、考えを深められるような時間を設ける。	・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問への肯定的回答は、県や全国よりも上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容